

交通の安全について

鈴木忠義*

Traffic and Safety

Tadayoshi SUZUKI*

人間が生きるためには、交通条件が絶対条件として必要である。社会が巨大化し、複雑化し、高度化してきているために、わが家にじっとしていても、生きられるような錯覚に陥らされている人も多いが、実は交通の多様化と多元化は想像以上のものがあり、それに支えられているのである。

身体の調子が良く、元気で働き、生活している時は、健康の価値を感じないが、体調がおかしくなり、様々な検査等を行った時、その関係の複雑さ、時には神秘さにまで驚かされることがある。私は交通問題は人体内の交通にたとえて話をすることが多い。

私たちの身体の内には、5つの交通があり、その交通が順調であることが、健康で社会生活がおくれる条件となる。物流に相当する消化器系、パイプラインやケーブルで送られてくるエネルギーに相当する呼吸器系、ケーブルや電波からの情報による神経系、上下水道に相当する血液の循環器系、安全のための緊急交通に相当するリンパ系などが、ちょうどそれらに相当する。また、身体の内外的交通、体内での循環など、身体をひとつの地域として考えた時に、それらは、内外交通、内内交通となることも、よくあてはまっている。

以上のような体内の5つの交通はどれひとつをとっても、人体に重要な影響を与えるものであることは、誰しも理解しているところである。それゆえ、交通の確保は、人間居住の条件として、まづもって重要視されるのである。一昨年の上陸豪雪の場合もそうであるし、また、緊急自動車の確保が、どれほど人間の安全居住を支えているかを考えてみれば、よく理解される。

ところで、人間は“創造する動物”といわれる。そのために、人間社会はソフトにもハードにも、著しく変容を続けてきた。特に産業革命、技術革新を通じ、その変化は著しい。それに支えられ、また支え、推進してきたものに、交通の変化がある。交通の変化は様々であるが、最も本質的な変化は、これまでスピードとボリュームの問題であった。もちろん、安全を前提とし、コストや快適性なども問題になるが。

ところで、このスピードとボリュームの問題では、交通手段の革新的な変化により、段階的に変化をし、それはとどまるところを知らないように見えるけれども、交通目的の多様化と、交通手段の多元化を冷静に考え、かつ人間にとって目的的に交通を考えた時には、その対策において、スピードとボリュームの問題は大きく変わろうとしているように思われる。

スピードとボリュームの問題が今日の段階を格段に越えて変化することよりも、筆者は人間にとって、最終的な交通の効果として考え、変化を志向すべきであると考えている。それは、交通空間との問題、装置と搬器との交通メカニズムの問題、さらに一番大切な問題は、人間の心と動作の余裕と限界の問題である。徒歩からマイカーまでの一連の不特定多数の人々の個別の交通はもちろんのこと、専門の厳しい訓練を受けた高度のマン・マシン・システムにおいても、その限界を感知する必要がある。これからは、交通の改善の方向としては、文化としての交通を考え直す必要があり、その時には、交通の安全は、一面的な交通現象の安全だけではなく、人間社会の安全、地域の安全が交通の目的として重要なことが理解されるはずである。

*東京農業大学教授

Professor, Tokyo University of Agriculture

原稿受理 昭和57年5月14日